

新潟県

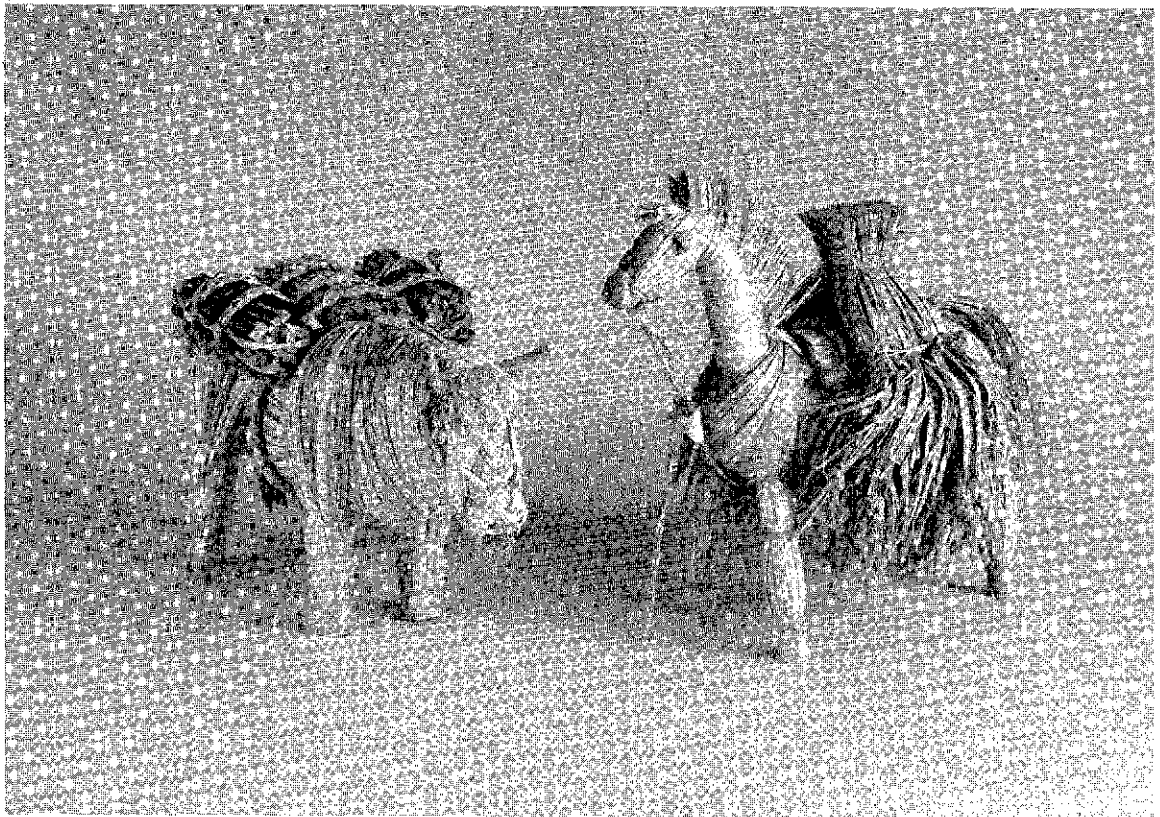
62年

公民館月報

7月
第413号

特集 公民館初任者講座4

—学級・講座開設の考え方とその手順(下)—



越後の郷土玩具(七)

すげ馬・すげ牛

郷土玩具の素材は、紙・土・木(草)に大別される。昔、貴重だった紙は都市周辺で、土は良質粘土の産地で、山深い農山村では木や草が素材となった。

新井市平丸地区は、戸数百十戸、人口五百人足らずの過疎に悩む部落である。が、ここが素晴らしい「すげ馬・すげ牛」をうんでいる。威勢がよくたくましい馬、忍耐強い牛。だが農作業の変化で飼われなくなった。それを偲んで三十年ほど前、同部落の岩崎雄作老の手で馬が、ついで岩崎亮二によって牛の製法が編み出された。今これら先人の技術を受け継ぎ、平丸民芸品組合がその伝統と品質の維持を守っている。とはいえ、作る人の高齢化、後継者不足、過疎化などにより衰退気味となっている。

昨年、民芸品保持のため、県下二校が指定を受けた一つに平丸小学校があり、児童が「すげ馬・すげ牛」作りに取り組んでいる記事を読んだ。うれしいことである。稲束を背負った馬、薪を運ぶ牛、いずれも手のかんだ立派な郷土玩具である。

(玩物居あるじ記)

第 2 回 理事会開く

去る六月九日(火)新潟市白山会館で、本年度第二回理事会が開催された。

主な議事は、第三十八回県公民館大会の進捗状況及び、同大会で表彰される、優良公民館・永年勤続者の選考であった。ついで、関プロ公連・全公連の關係する事項について報告がなされた。

優良公民館表彰は五館

永年勤続者表彰は十五氏に

優良公民館表彰一覧

- 上日町市十日町公民館
- 柏崎市枇杷島地区公民館
- 出雲崎町中央公民館
- 新潟市東地区公民館
- 新潟市北地区公民館

永年勤続表彰者一覧

雲郷 彰	新潟市東地区公民館
徳茂 徳一	長岡市日越地区公民館
五十嵐末松	白根市大郷地区公民館
長谷川邦夫	白根市大郷地区公民館
平山 勇	白根市白井地区公民館
小黒 基栄	新潟市北地区公民館

氏名	所 属
出中 信行	畑野町公民館
小川 清司	妙高々原町公民館
大貫 泰弘	小須戸町中央公民館
小池 直臣	豊浦町公民館
小林秀一郎	十日町市公民館
長谷川政夫	亀田町公民館
荒井 克夫	亀田町公民館
伊藤 源治	名立町公民館
村田 澄雄	高柳町公民館

『全公連基本構想について』

中間報告 出る

六月十二日、全国公民館連合会総会が東京都青山会館で開催された。続いて十九日には同じ会場で都道府県事務局長会議が開催された。本会から、会長と事務局長がそれぞれの会に出席し、全公連の当面の問題を聴取してきた。

今年度の最重要案件は「社団法人全国公民館連合会基本構想」についての中間報告であった。この基本構想は、昨年一年を費して十名の専門委員によって慎重に検討し、全公連の組織体

として方向を模索してきたものである。この中間報告は、もとより、課題と解決の方向を示したものであり、今後全公連理事会において、具体的な改革の方策が提示されるものである。その時には、我々も全公連組織の形成者として主体者意識をもち十分なる審議に参加せねばなるまい。

横山全公連会長が、全公連のあるべき姿にふれ「都道府県公連ひいては全国の公民館との關係をより一層緊密にし、共通理解から共感的理解に至るようにしたい。そして、所属感・帰属感の持てる全公連にならねばならない」と言っていた言葉が印象的だった。

◇県大会で表彰される、優良公民館並びに、運営審議委員・非常勤職員の永年勤続表彰については、あらかじめ市町村から推薦のあった候補館5館、候補者15人について、選考がなされた。その結果、公民館については、表彰基準では三館程度とされているものの、候補公民館のそれぞれが優れた活動をしていることから、五館の全部を表彰すること

とした。なお永年勤続者については、推薦された15名がすべて適格者であることから、これまた全員を表彰することとなった。続いて全国公民館振興大会において表彰をうける優良職員、永年勤続職員についても、推薦のための審査をあわせて行った。

◇関東甲信越静公連の第一回理事会報告(六月二・三日山梨県石和町で開催)

主要案件は、「第28回関プロ公研集会」の成果を高めるべく協力することについて。このため、本県から、第13分科会(婦人の学習と公民館)について、発表者、司会者、助言者の三役を出すこと、ならびに、少なくとも15名以上の参加者を確保してほしいとの要請があった。



あいさつに立った横山会長
(於都道府県事務局長会議)

公民館大会レポート(2)

事前研修 地域に根ざす初期公民館が求めたもの

早稲田大学客員教授 横山 宏氏

第38回県公民館大会がいよいよ目録の間せまりました。

大会での講義をお願いしている横山宏教授から、このほど大会主題「地域に根



ざす公民館のあり方に」をより深めて大会に参加すべく、事前研修用の論文をいただきました。先生の熱っぽい迫力が心に伝わってきます。そのため書くまでもなく、いわゆる公民館は一九四六年七月の文部次官通牒「公民館の設置運営について」に端を発するものであり、それはまた「寺中の構想」にもとづくものである。そもそも寺中作雄氏がこのよ

辛口

保健医療 担当者は、疾病治療の重要性は無論だが、飽食時代、ストレス社会、そして

高齢化社会の今日、疾病以前の生涯を通じる心身の健康づくり、ことに心の健康づくりなくしては健やかに生き抜くことは難しいと受けとめている。

健康づくりは人間づくりであると強調するゆえんである。社会教育における新、新潟県長期構想では、生涯にわたる教育、文化、スポーツ活動の基盤整備。新たな社会

本的生活習慣の正しい育成事業も社会教育施策の基本と同質のものである筈なのに、両者の横の連携が不十分のため、事業内容が重複したり、非効率的になったりしている憾み

健康の自己責任自覚のための保健衛生部門、情操涵養のための社会教育部門、少々の社会福祉部門、内容的合意形成による事業分担の整理と整合、そして事業における連携が必須で、「隣は何をする人ぞ」であったはず

隣は何をする人ぞ

馬場 賢一

現状、出会い、ふれあひ、助けあひの地域

が多分にある。現在、出会い、ふれあひ、助けあひの地域

が、住民情報を把握し、それぞれのコ

一方、県環境保健部が推進している各ライフステージにおける基

おこしが強調されているが、これはとりもなおさず、思いやりの心の健康によって築かれていくべきものである

が、それぞれのコ

が推進している各ライフステージにおける基

おこしが強調されているが、これはとりもなおさず、思いやりの心の健康によって築かれていくべきものである

が、それぞれのコ

うな構想を抱くに至った背景は、敗戦によって廃虚と化した国土と、極度に荒廃し、向かうところを失ない茫然自失している同胞、わけても青年の姿を前にして、たまたま文部省の公民教育課長の職に就いたことにある。従って、そこには単なる役人(公務員)としての着想をはるかに越えた、一種の悲壯感すらともなった念いが込められているのである。

謳っているのである。星霜移り四〇余年、いまの公民館は果たしてその初志を貫いているのだろうか。建物の壮麗さと内容の充実とは、おおむね反比例する(パーキンソン氏の法則)となっているのではなからうか。そんな感慨に耽っていた筆者は、たまたま今春北海道のオホーツク沿岸地区を旅し、彼の地の公民館職員員の研修会に臨んだが、そこでは若い公民館職員が、「過疎、過疎、過疎」の中で村びととともに炭を焼き、漁を手伝いながら孜々として郷土を興くす欣びに燃えて、公民館活動に励んでいる姿を目撃し、心身が洗われる思いがした。世論・風潮・流行と称して、「文化・教養・知識・技術」の切り売りよろしく、「カルチャー」風の講座が虚しく繰り広げられている公民館の現況を見るにつけ、いま再び「公民館よ、初志に返えれ！」と願わずにはおれない。「いまや文明はカステラとなり、文化は鍋と安アパートと化してしまつた。すべて内容のない言葉は墮落する」と喝破した、竹内好氏の言葉が重くのしかかって来るようである。公民館が、地域に根ざし、郷土を興くす活力源となつてくれることを願ってやまない。



乗る人にべるとすめる思いやり(夏の交通事故防止運動)

執筆者紹介
十日町市博物館長

星野元一氏

昭和三十三年、十日町市の職員に採用以来の生え抜きの公民館人。途中昭和52年から60年まで、教育委員会社会教育主事、市立博物館副館長を歴任のあと公民館副館長の職にあった。伝統ある「十日町公民館」の歴史を築いた人の一人。



星野氏

任者講座 4

考え方とその手順(下)

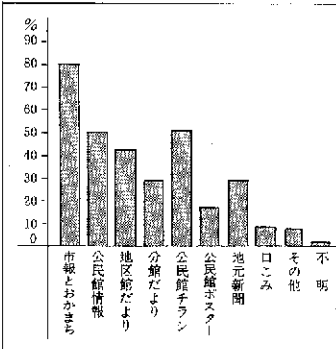
実践を中心に—

五、受講者の募集

さて、受講者の募集です。どんなによい企画でも、人が集まってくれないければ、学級・講座の展開が望めないことはいうまでもありません。そこで、まず、伝達のための募集要項(チラシ)が必要になってきます。その内容の表現とキャッチフレーズを工夫しましょう。

内容は、分かりやすいこと。ねらいや全体像が見えるものではないと、住民の理解は得られません。人はだいたい見出しにしか目を向けませんから、ねらいや内容を端的にとらえ、しかも魅力あるキャッチフレーズが重要な役割を果たします。その点で、企業の宣伝や週刊誌などの見出しは、参考になります。あまり下品でも、誇大宣伝でも困

【図1】公民館の事業の情報源について



りますが、少なくとも、お役所的では反感をもたれるようにです。

図1は当市での宣伝方法についての反応です。調査対象によって、かなりの違いがあるのではないかと思います。何が効果的かを調べておく必要もあるでしょう。しかし、祭りには祭りの雰囲気を感じ出す小道具が必要のように、いろんな方法で宣伝しておくことが大切です。

それから、ダイレクトメールです。特に婦人の場合は、婦人会やPTAなどと手を組み、これを行うのも一つの方法です。最後は、ロコミです。図1では、数は少ないようですがむしろ確実性のあるのはロコミです。そのためにも良い企画をすることではないかと思えます。

六、講師の依頼

職員は、学級・講座のプロデューサーです。講師は、学級・講座の一部としか関わることが出来ません。ですから、その全体、そのねらいや、内容、方法、その中のどの部分を受け持ってもらおうか、をしっかりと伝えておかないと方向がずれたり、内容が重複したりして、出席率の低下を招きます。

私たちの公民館では、講師依

頼書をつくり、行事名、期日、会場、対象、課題、内容(できるだけ具体的に)、方法、交通、宿泊、連絡先、その他、を連絡することにしています。そして、対象の年齢、性別、職業、学級経験など、申込書からつくった

「受講者状況」や「学習プログラム」「映画プレス」場合によっては「質問事項」なども届けるようにしてきました。そうした資料がないと、講師的を得た学習準備ができないのではないのでしょうか。ですから、社会教育における職員の位置が重要になってくるのです。

七、仲間づくりと役割分担

人間は、互いに心を許し合わ

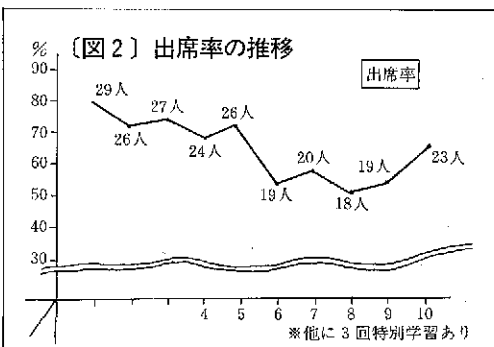
ないと本音を出してくれません。本音がでない、おぎなな仲間しか出来ないし、おぎなな学級にしかありません。ですから、最初の学習日には話し合いの時間を十分にとり、自己紹介(いろんな方法をつかい)などを丹念に行う必要があります。そのためには、まず、職員が裸になることです。自分や自分の家庭の弱点をさらけ出して見せることによって、受講者たちも安心して話し合いの輪に入ってきます。

話し合いには方法がありま

八、学級・講座の運営

一般的に出席率は、回を重ねるごとに低下しがちです。今回の婦人学級では次の図2の通りでした。

【図2】出席率の推移



※他に3回特別学習あり

公民館初

学級・講座開設の

— 婦人学級の

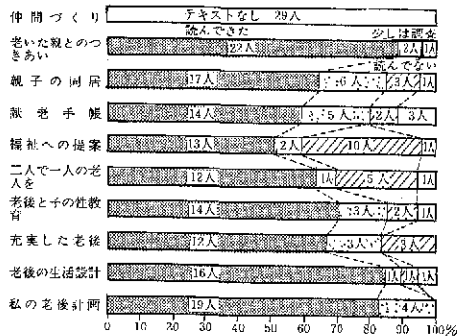
しかも、仕事を持った大人の社会の学習では、百パーセントの出席率は困難です。があまり低下させると、連鎖反応をおこし、ますます欠席者を多くします。そこで、その対策が必要になります。調べてみると、「学習が解らない」とか、「面白くない」とかという場合が多いようです。ですから、職員も常に学習に参加し、受講者を観察したり、評価なども行って、学級の状態を把握する必要があります。そして、場合によっては、学習内容や方法を検討し、修正も必要になってきましよう。学習は、楽しみや、喜びにまで高まらな

いと継続が難しいのです。欠席者の心理としては、二、三回の欠席が続くと出席しにくくなるといえます。ですから学級の仲間同志で、欠席者への電話連絡をするとか、ハガキによる「学級案内」や、学習内容を知らせる「学級通信」などで、つながりを持たせる努力も必要です。また、場合によっては、喫茶店での学習とか、映画館での映画鑑賞や、他地域との交流会なども組入れて見るのもよいでしょう。私たちの学級では、今回それらの実験をして見ました。受講者を飽きさせないためには、学習が単調にならないための工夫がたいせつです。

九、学習のまとめ、反省と次年度への計画

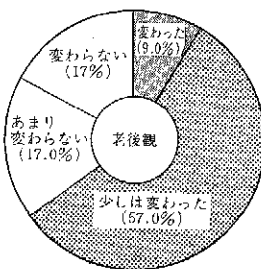
社会教育は、一般的には短期決戦型だといわれています。私たちの学級も、週一回の学習で計十回、ほかに特別学習をいれて十二回を、三か月間で行いました。内容については前号のプログラムのとおりですが、気になるのは受講者の反応です。そこで、読書、映画、発表、話し合い、講義などの様子を調べながら進めてみました。図3のグラフは、その中の「読書」についてです。

【図3】



「話し合い」については、「よかった」が平均45%、「まあまあ」が36%でした。婦人の話し合いはおしゃべりのすぎて、そのへんの注意が必要のようです。「講義」については「理解できた」が平均75%、「少しは」が18%。全体を通して、「よかった」が平均60%、「まあまあ」が30%でした。そして、「レポート」の提出は45% (16人) でした。この調査から見ると少しは満足して貰えた学習になったのではないかと考えられます。

【図4】 老後観



「話し合い」については、「よかった」が平均45%、「まあまあ」が36%でした。婦人の話し合いはおしゃべりのすぎて、そのへんの注意が必要のようです。「講義」については「理解できた」が平均75%、「少しは」が18%。全体を通して、「よかった」が平均60%、「まあまあ」が30%でした。そして、「レポート」の提出は45% (16人) でした。この調査から見ると少しは満足して貰えた学習になったのではないかと考えられます。

とくに学習者のものになったのか。そこで、受講者が学習後に行ったことを調べて見ると、「友人と話した」(43%)、「関係した本や新聞を読んだ」(27%)、「夫婦で話し合った」(25%)、「レポートや日記を書いた」(23%)、「関係したテレビを見た」(18%)、「親子で話し合った」(9%)などでした。さらに、学習を通して受講者がどう変化したかを調べて見ると、次のグラフ(図4)のようでした。さて、これらの数は何を語るのでしょうか。もちろん、教を鵜呑みにはできませんが、「学習

すれば、すこしは学習者に変化を与えることができる」という見方も出来ますが、同時に「変化とはその程度のものなのか」と考え、「目標への到達などなど無理なことだ」というようにもとれましよう。だから学習は継続する以外ないのではないかと考えます。ですから、その年の反省を、次年度の学習に生か

質問をお寄せください

「初任者講座」の内容及び関連した内容についての質問投稿をお待ちしています。まとめてQ&A欄を特集する予定です。あて先は八面の発行所へ。

安全をいじも心にふむべタル (夏の交通事故防止運動)

実践記録シリーズ

(20)

確かな手応えパソコン講座

はじめに

今日のコンピュータの普及は、目をみはるものがあります。私たちの家庭の中にも数多くのマイコン（マイクロコンピュータ）がすでに入ってきていま

す。その代表として、直接操作して楽しめるパーソナルコンピュータ（パソコン）を利用して、プログラム言語（ベーシック）の基本を楽しく学びながら、コンピュータアプレギーを取り除くことを目的として、昭和60年度からマイコン教室を開設し二年目を迎えました。

講師及び機種

講師には、市内のパソコンショップなどから情報を得、当市在住の新潟大学助教授飯田恵一先生にお願いしました。また、助手として私が手伝いました。

パソコンは、最初メーカーから借用する計画でしたが、期間が長いため無理。そこで、個人所有のものを借用することになりました。台数は二人で一台中の割合で十台。

学習内容と方法

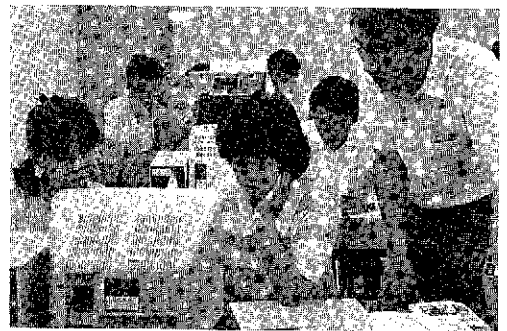
内容は、各年度ともベーシックが中心です。60年と61年度は、延べ学習時間がそれぞれ50時間と長かったのでベーシックの基本的な命令から始まり、グラ

〔年度毎実施状況一覧〕

	60年度	61年度	62年度
回数	20回	20回	10回
人数	男15女5	男12女8	男12女0
パソコン	10台	10台	6台
指導者	2人	2人	2人
日時	水 19:00~21:30	金・土 19:00~21:30	木 19:30~21:30
費用	6,000円	6,000円	6,000円

フィック、シートケンシャルファイル、ランダムファイルと、ひととおりの内容をこなすことができました。その他に、日本語ワ；プロ、作表計算などのプログラム試用や、財務会計、コンピュータミュージックなどの応用例を紹介しました。

学習方法は、参加者全員がパソコンに触れることができるようにしながら、前回の復習を三分前後行い、繰り返しを重点にして実施しました。



また、テキスト及び参考プログラムは、講師がすべて作成してくださいました。テキストはB5判で80ページにもなりまし

受講者の反応と反省

初年度は、パソコン講座を長期間実施することについて不安がありました。が、大成功に終わったと思っています。というのは、五月から十一月にわたる長丁場でしたが、脱落者が少なかったこと。パソコンの提供者など協力者に恵まれたこと。さらには、受講者の発案で、講座閉講後に、講師やパソコン提供者を交えて、同級会を開催したことなどです。また、これをきっかけにして、講師の飯田先生を会長に

して「豊栄マイコンクラブ」が結成されました。

二年次は、初年度の反省から、開講期間を短かくして、学習効率を上げるため、また、パソコン提供者の負担を軽くするため、週二日の日程で実施しました。五月から七月に圧縮した結果、学習の効率はあがりましたが、受講者の時間的負担が増し、出席率が下がる結果となりました。

二年にわたる講座で感じたことは、受講者の年代区分をした方が良かったということです。若い人たちは、理解が早いのに、40歳を過ぎるとだんだん遅くなるからです。今年はこの反省に基づいて二グループで実施するつもりでしたが、支障があり実現できませんでした。

おわりに

最初の卒業生を中心に結成したマイコンクラブは、会員を増しながら公民館を中心に活動しています。会員は、当初豊栄市民だけでしたが現在は、新発田市、水原町、京ヶ瀬村にまで広がりが広域化しています。これからも活発な活動ができるように支援していきたいと思っています。

（豊栄市中央公民館主事

丸山 正記）





(本田氏からの絵はがき)

白鳥の故郷入りした 本田清氏

白鳥の本田氏
といえは、いうまでもなく、本会の前事務局長本田清氏。いよいよ現地入りしたという便りがこのほど届きました。次に紹介します。

白鳥のふるさとを目前にベイスキャンブ生活。か月以上。まだ成否は五分五分、序の口というところだ。
ここは、政府の許可のほか、自治区・軍隊と何十ものハンコのあるところでした。
独り旅のせいかな中国語もだいたい理解できるようになり、不自由はありません。中国人は、コセコセしたところがなく、先を見つめて悠々と仕事をしています。

情報 広場

××××××
新疆吾県にて

入山すると手紙を書けませんでした。九月には一度帰国予定)
中華人民共和国烏魯木齊市
北京路、中国科学院分院招待所気付 本田清

待たれる「初任者講座」

山北町公民館長の佐藤久恵氏から次ぎの便りがありました。

(前略)

六月号で一番有益だった記事は、「初任者講座」です。長年の経験と研修を積まれた人のものだけに、具体的で多く教えられるました。特に「婦人学級プログラム」は参考になります。次号の「下」が待たれます。終りに要望一つ。インター

「ジェント化」をはじめ外来語の難しいものには、() 書きで、訳をお願いします。

ご要望の趣旨よくわかりました。極力要望に副えるように努めます。そこで、外来語だけでなく、他にも疑問点がありましたら遠慮なくどうぞ。適当な量にまとまったところでQ&Aコーナーを設けます。(編集子)

利用者の投稿大歓迎

本紙は、これまで公民館の職員、運営委員のみなさんを対象にした内容を主として扱ってきました。が、読者に公民館利用の個人や団体のみなさんが少なくないようです。そこで、七面の「情報広場」を利用者の意見随想や利用者相互の交流の場にもいたします。ご活用ください。投稿字数は四百字程度、宛先は、八面の発行所宛「編集係」。

白根市中央公民館主任 布施正男氏 (36歳)



公民館に来てまだ2年、といふものの、青年センター(市町村立)の青年の家を設置しているのは、白根市が県内最初)に5年もいた社教のベテラン。

現在は、中央公民館の事業をすすめながら、根岸・鷲巻の二地区館の主事を兼ねているとか。顔を合わせると、開口一番「地域に根ざした活動をするには、地区館の活性化を図らねば」

素顔 拝見

小須戸町中央公民館主事 水沢喜代志氏 (27歳)
農業共済に3年、公民館の主事になって4年目、いわば若手のホープである。



「ワ」を發揮させたい」と意気こんでいた。一分館はどんな活動をしているんですか

「どういう仕事か主なんですか」「おろん公民館の仕事は全部です。去年までは、図書室運営が目玉でしたが」とおっしゃる。図書館を見せたらうと、蔵書冊数一万余千冊、広い閲覧室が整備されているのが目についた。

「あなた自身の今年の抱負は」「婦人層の活性化です。団体育成や学級・講座のテコ入れをするつもりです。なんとか女性バ...」とおっしゃる。地区館活性化のポイントはい「スポーツと芸能祭の二大イベントに終始している活動から、今年は一歩抜け出し、学級・講座に力を入れるべく休質改善と取り組んでいる」とおっしゃる。具体的などういうことを？」

「実は、昨年から婦人学級(若妻学級)を開設すべく掘り起こしを進めて来たんです。」

「公民館の良さはどんな点？」

「自分の仕事は住民に直に響くんです。一般行政では味わえない充実感です」と目を輝かして答えてくれた。(上村記)

県 事 業 紹 介

文化行政課

昭和六二年度

「新潟県文化財指導者講習会」

県民一般に、文化財に関する知識を普及し、これを愛護する精神を高めるために文化財保護について指導の立場にある関係者の参集を求め、これに必要な専門的知識及び技術を研修するものである。

主催 新潟県教育委員会
期日 昭和六二年八月二七日(休) 八月二八日(金) (二日間)

会場 新潟県庁西回廊二階講堂
新潟市新光町四番地一
(電話) 〇二五-二二五二
内線 三二文化行政課

受講者

次の各号のいずれかに該当する者

- (1)市町村教育委員会文化財担当職員
- (2)市町村文化財保護審議会委員等
- (3)小中高等学校教職員
- (4)その他、文化財保護に関心ある者

受講者定員 二〇〇人
受講申込方法等

高等学校教職員以外は、すべて市町村教委へ申込んでください

高等学校教職員は、各自教育庁文化行政課あて往復ハガキで申込んでください。

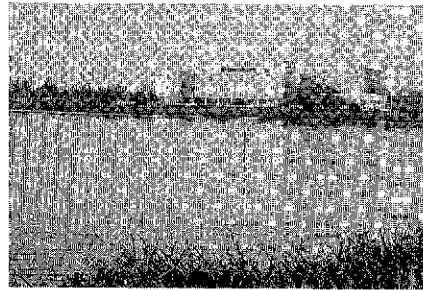
電話による申込みは、御遠慮ください。

申込期限 八月十日(月)まで
(受講の可否については、返信用ハガキで連絡します)

県立自然科学館

特別展案内

音と光のふしぎな世界



自然科学館遠景

音と光が織りなす不思議な世界は、見る人々に楽しい驚きを与えます。

今回は、音と光を使った楽しい不思議な作品を紹介します。

期間 7月25日～8月23日

所在地 新潟市女池字蓮濁東二番

電話 〇二五(六)二二二
交通

バス 新潟駅下車、女池愛宕行き、野球場・科学館

大正っ子の心意気

石井耕一 著



良書紹介

この間まで豊栄市の市長だった石井耕一氏というよりは、ホンの二年前まで、本会の会長だった方という方が親しみが湧く。その石井氏がまたまたエッセイ集を刊行された。「おしゃべりはダイヤモンド」「大正っ子ペンザイ」に続く三冊目の随筆集「大正っ子の心意気」がそれ。

内容は、幼なじみの思い出や、消えない戦争の心の痛み、あるいは、随想や時事問題等々中広く豊富な話

題が堅妙なタッチで書かれている。何気ない書きぶりの中に、時代の風俗や思潮を的確に捉えていて、そして何よりも、一貫した氏の人間を愛する心が、読む者を引きつけて離さない。ぜひお勧めする一冊である。購人は最寄りの書店で。(B6判、二六七頁、昭和六十二年四月一日発行、新潟日報事業社発行、定価一、三〇〇円)

前下車

自動車 新潟バイパス桜木インターから三分

開館時間 午前9時30分～午後4時30分

休館日 毎週木曜日 年末年始

入館料 大人500円、小中学生300円

あとがき

◇いよいよ県公民館大会が近づきました。主管公連では準備に万全を期しています。大会の成功に全員の協力をお願いします。◇おわびと訂正 先月号の「素顔拝見」の文中、中条町中央公民館の長野正夫氏の公民館勤務通算二四年とあるのは十四年の誤り、また同記事提供の聖籠町公民館の手島勇平氏の職名が主任とあるのは社会教育主任の誤りでした。両氏に深くおわびし訂正いたします。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 志 水 亘

編集人 事務局長 上 村 捨二郎
【定価1部 120円 年共 1,440円】